
Ⅲ 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

理工学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

理工学部は、幅広い教養と理工学基礎力を土台として、多面的視点をもって社会の広い分野で活躍できる科学・技術の専門的素養を持つ人材を育成することを目的とします。これを実現するために1学科12コースの教育体制を取り、1年次は共通の講義で基礎学力を整え、2年次のコース配属によりそれぞれの希望する専門に分かれて教育を受けます。以下に、理工学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みを示します。

理工学科

理工学科では、基礎科目から専門科目までを段階的に学んでいくことで、理工系の学問領域の幅広い基礎的知識と各学問分野での専門知識を身につけ、複眼的視点を持って広く社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。そのため専門教育は、基礎学力や理工系分野のリテラシーを修得するための学部共通科目と各専門のコースで個別に開講される専門科目に大別されます。教養教育も含めたカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通基礎科目	理工系人材に要求される基本的なリテラシーを修得するために、基本的な知識に加えて倫理観や自立した責任感ある行動力が求められます。またPBL学習を通して課題解決能力や複眼的視点を修得するために、共同して学ぶ姿勢や主体的な学習態度が必要です。
学部共通専門科目	理工学部としての共通の基礎学力を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学を中心とした理数系科目に関する基本的理解と、理学や工学の分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
コース類共通専門科目	専門のコースに分かれる準備段階として、各専門分野の特性に合わせた専門知識を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学を中心とした理数系科目に関する基本的理解と、理学や工学の分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照
卒業研究（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

理工学分野で学習する概念や法則、その応用や技術革新を理解するためには、まず理工学分野の基礎となる数学・物理・化学を土台とした基礎学力、そしてこれらを専門分野において活用できる能力が求められます。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ数学・理科については教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

各コース別の専門教育のカリキュラム編成と同カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

数理サイエンスコース（数理分野）

数理サイエンスコースでは、数学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのための専門教育のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	数学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
専門科目（選択）	数学の思考力、表現力および数学の各分野における論理を理解するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を修得することになりますので、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校

で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

知能情報システム工学コース・情報ネットワーク工学コース（情報分野）

情報分野を構成する知能情報システム工学コースと情報ネットワーク工学コースでは、知能情報システム工学または情報ネットワーク工学における専門知識・能力及び広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、この社会（地域社会・国際社会・産業界）で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (知能情報システム工学コース)	知能情報システム工学分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、情報技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (情報ネットワーク工学コース)	情報ネットワーク工学分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、ネットワーク技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力と実践力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行うことで、専門学修の総仕上げとします。そのため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

情報分野では、社会の第一線で活躍できるように、知能情報システム工学や情報ネットワーク工学に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、数学、理科（物理や化学）などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけていることが必要です。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うためには、必要な基本的な思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃から情報工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。高校等での学習においては、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。また、情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けることも必要です。そして、男女を問わず、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

生命化学コース・応用化学コース（化学分野）

化学分野を構成する生命化学コースと応用化学コースでは、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (生命化学コース)	生命化学・分子生物学の知識を体系的に身に付けていくために、生命化学分野を主たる内容とした専門科目の講義を、無機化学、有機化学・生命化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置し、理解と実践力を修得します。したがって、高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、生命化学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、および課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (応用化学コース)	物質化学・材料化学分野の知識を体系的に身に付けていくために、材料化学への応用を主な内容とした専門科目の講義を、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置し、理解と実践力を修得します。したがって、高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、材料化学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、および課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。

卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して自ら仕事を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。
------	---

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

化学は、さまざまな物質や材料の構造や機能の関係性を明らかにするために、それらを詳細に調べ、新しい物質の合成や分析を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生化学的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

物理学コース（物理学分野）

物理学コースでは、物理学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	物理学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
専門科目（選択）	物理学の思考力、表現力および数学の各分野における論理を理解するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を修得することになりますので、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解および計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

機械エネルギー工学コース・メカニカルデザインコース（機械工学分野）

機械工学分野を構成する機械エネルギー工学コースとメカニカルデザインコースでは、機械工学に関する領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (機械エネルギー工学コース)	エネルギー工学に関する基礎的知識、技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、エネルギー工学の観点からものづくりを実際に行うための機械設計、製図を通し、課題を発見・探求・解決する力を身につけるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。

専門科目 (メカニカルデザインコース)	システム工学に関する基礎的知識、技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、企業等が生産現場で抱える課題やニーズに対応するための課題発見、解決能力を修得するために、演習や実験などを含む体験型学習を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、今後も重要となる産業界の諸問題の基となる学問です。それを修得するためには、高等学校で学ぶ数学、物理、化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、機械工学に関した講義の理解、レポート作成、プレゼンテーションにおいて、読解力や記述力などの国語能力、世界情勢や歴史、文化など社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに様々な分野で将来的に活躍するためには、英文の読解や作成、コミュニケーションなど基礎的な英語力は欠かせないものです。機械工学によるものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

電気エネルギー工学コース・電子デバイス工学コース（電気電子工学分野）

電気エネルギー工学コースと電子デバイス工学コースでは、電気電子工学の専門知識・能力と広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、地域社会・国際社会・産業界等で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムの適応に必要な能力や適性、さらに入学志願者に高等学校等での学習で取り組んでいただきたい内容を下記に示します。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (電気エネルギー工学コース)	電気エネルギー工学コースでは、電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と電気エネルギーの発生、変換、利用などについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために、数学と物理の理解力と応用力が必要です。また、電気電子工学実験では、PDCA（Plan→Do→Check→Action）サイクルの実践的な能力を修得し、チーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (電子デバイス工学コース)	電子デバイス工学コースでは、電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と半導体の物性、電子デバイスの原理、電子工学への応用などについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために、数学と物理の理解力と応用力が必要です。また、電気電子工学実験では、PDCA（Plan→Do→Check→Action）サイクルの実践的な能力を修得し、チーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行い、専門学修の総仕上げとします。そのためには、3年次までの教育課程の内容を十分に学修できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、積極的に学習・研究活動を進めていく能力や姿勢を持っていることは必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

電気電子工学分野では、社会の第一線で活躍できるように、電気電子工学に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、数学、理科（物理や化学）などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけていることが必要で、教科書レベルの知識を有していることを求めます。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃から電気電子工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。

都市基盤工学コース・建築環境デザインコース（都市工学分野）

都市工学分野を構成する都市基盤工学コースと建築環境デザインコースでは、都市工学の領域における専門的知識・技能を身に付け、都市・地域の持続的発展に貢献できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (都市基盤工学コース)	社会基盤工学に関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、安全・安心な都市・地域の環境基盤整備や都市・地域の環境基盤をより一層豊かにするための高度な知識・技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、社会基盤工学分野のプロフェッショナルとして課題発見能力および課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (建築環境デザインコース)	建築都市デザインに関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、身の回りの居住環境・建築環境の快適性を最適に保つための知識・技能、現代社会に対応した建築・都市空間を計画・設計する能力を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、歴史や文化・伝統などに関する専門的観点から多様な価値観を理解する力、都市・地域の持続的発展に向けた建築・都市空間のあり方を提示する力を身に付ける必要がありますので、高等学校で履修する国語、地理、歴史といった幅広い教科や科目の基礎的理解が必要です。さらに、建築都市デザイン分野のプロフェッショナルとして課題発見能力および課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

都市における社会基盤・建築物等の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学分野では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的現象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などを学習することを期待します。

入学者選抜の基本方針

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、志望分野への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「帰国子女」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 専門科目と特に関係の深い教科・科目に関する十分な知識・技能と、これらを踏まえた高度な思考力・判断力・表現力
- ④ 志望分野で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 専門分野に対する強い興味・関心
- ⑥ 主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑦ 本学部で学びたいという強い意欲
- ⑧ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」				
選抜方法	前期日程	共通テスト	60	○	○	○				
		個別試験	○	40	○	○				
		特色加点					☆	☆		☆
	後期日程	共通テスト	60	○	○	○				
		個別試験	○	○	40	○				
		特色加点					☆	☆		☆
	学校推薦型 選抜 I (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト				◎				
		小論文				◎				
		面接				○	◎	◎	◎	◎
		活動実績報告書					◎	◎		◎
		推薦書	○				○	○	○	○
	調査書	○				○	○		○	
	総合型選抜 I (全科対象)	適性検査	○	◎						
		面接	○			○	◎	◎	○	
		活動実績報告書					◎	◎		◎
		志望理由書					○	○	◎	○
	調査書	○				○	○		○	
	総合型選抜 II (全科対象)	共通テスト	91	○	○	○				
志望理由書								(9)		
活動実績報告書						(9)	(9)		(9)	
調査書		○				(9)	(9)		(9)	
帰国子女	小論文	○	○			◎	◎			
	面接		○			◎	◎	◎		
	提出書類	◎								

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

iv. ☆は、加点評価